

添付資料

現地ポスター



たき火



落ち葉プール



チョークでお絵かき



昔あそび



↑
竹馬

↑
こま



アンケートBOXがあった。
施設の満足度・職員の満足度 意見を伝える場がある。

◎目的

日本初、40年の歴史のあるプレーパークはどうなっているのか？

◎羽根木プレーパークで遊んでいたもの

- ・滑り台 ・小さなブランコ ・トントンカチカチ ・屋根のぼり ・たき火 ・川、水遊び
- ・ターザンごっこ ・おうちごっこ ・ベゴマ ・小さなツリーハウス

◎感想

・みんな自由に遊んでた。滑り台を逆さまから登るのは当たり前で、そこでケンカが起こった。まわりの大人も見ていたけど見守っていた。相手の男の子が泣いたところで母がストップ。「泣いたら終わりだよ」相手の戦う気持ちは既になかった。だが止められた息子の気は晴れない。この場合、どうすればいいのかわからなかった。

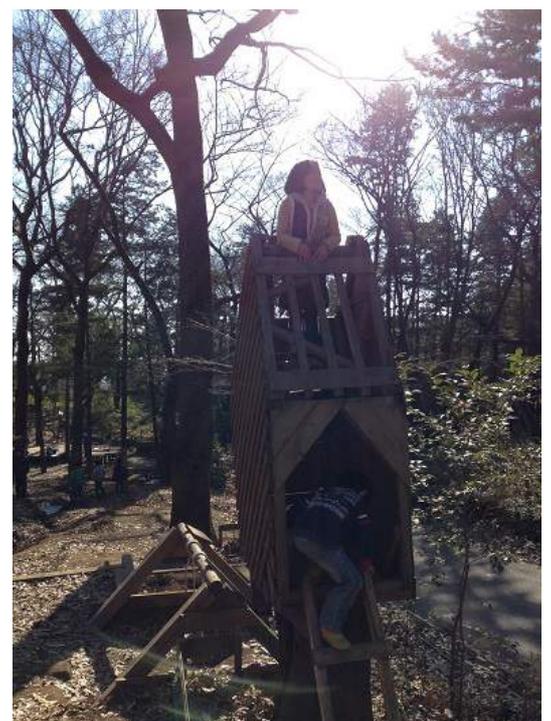
私だったら、、、そこで止めて、息子の話を聞くとと思う。相手が息子だった場合、とても見てられないなと思った。。。やっぱり、我が子のケンカは冷静な判断ができないから、他人に任せたいほうがいいなと思った。そういうとき、任せられる人がいる場所を作りたい。

プレーリーダーがどこにいるのかわからないほど、溶け込んでいた。滑り台、火遊び、小さな遊具等参考にして遊び場づくりをしていきたい。

遊び場詳細

◎小さなブランコ、シーソー、ツリーハウスがかわいかった。

小さいものでも、意外と大きい子も楽しめて(新鮮だからだと思うが)これはいいなと思った。



◎**滑り台**は、夏にはウォーターライダーになりそう。また夏に来てみたい。



◎**トントンカチカチ**では端材やトンカチ・のこぎりが自由に使えるようになっていた。

でもトンカチの数が足りず、
端材をトンカチ代わりに使う
子も居た。

ナイフや、なたは自由に使うのが
危ないのでリーダーに言って
貸してもらおう。

くぎは、自由に出ていて、
作業机に釘がいっぱい打ち付けて
あった。



◎**たき火**は、自分達で石を組んでできるよう準備がされている。子どもが遊ぶためのものなので、
大人だけの使用はできない。親子で芋を焼いたり、マシュマロを焼いたりする姿も多くあった。
マッチはリーダーに言って貸してもらおう。

◎**屋根のぼり** ついつい危ない！と言いたくなるところに
子どもがいる。見てるとひやひやするが、
自分にも身に覚えがある。

◎**ロープを木につるしたターザンごっこ**は、
写真がないがかなり大きく揺れる。

激しく動いても何かに当たらないよう周りには
何も無い。

ロープを手に取ることが出来る台は高いところがあり、
そこを自力で登れる子しか遊べない。

小学生くらいで上られる子が出てくるくらい



◎看板

あちこちに、看板があった。

いちいち説明せずにならえてもらえるようになっているようだ。



掲示板、カンパ箱設置。

ベーゴマ、子どものおこずかいで買う場合は80えん

というのがいいなと思った。

世田谷の4プレーパークの毎月のお知らせ

児童館並みに充実してると思った。



◎目的

日本初のプレーパークの、
イベントを楽しむ！

◎ニューイヤープレーパーク 内容

- ・もちつき
- ・はねつき
- ・かきぞめ
- ・大かるたとり大会
- ・どんと焼き



◎感想

・もちつきは、最初はおとながついて、もうほとんどできてから子どもがついて、大人は楽しそうだったけど、子どもはどうか？と思った。でも売り物にするのなら仕方ないのかなと思った。

・はねつきは、自由に遊べて楽しかった。初めてやったが、おもしろい！！はねが球の球より飛ばないので、取りに走らなくてもいい。羽根でなくても遊べるし、何より、羽子板の音がいい。宝の山にも取り入れたい。

・かきぞめも自由だった。参加の保護者が「たぶん自由にやっていいと思うよ」と言って自由に書かせている。大人も楽しむ姿があった。

・大かるた大会は、とにかく迫力があつた。大人が手加減なしに真剣に取り組む姿。それを見てひるまずとびこんでいく子ども達。とにかくすごかった。遊びに必要なのは、遠慮とか、手加減ではない。真剣に遊ぶことだと思った。それを見ているのもまた楽しいし、入ろうと思えばいつでも入れる雰囲気だった。

・どんと焼きは、無病息災を願って、年男が火を点けた。その場で年男年女を募集して行われた。

◎総評

楽しいイベントでした。

とにかく、大かるた大会の迫力がすごかった。

大人も本気で遊ぶ楽しさがあつた。それが子どもにも影響を与えると、見ていて思った。はねつきが思いのほかたのしかったので、宝の山にも取り入れたいです。

◎もちつき

最初は、大人がつく。だいたいつけたところで子どもがつく。一人10回つけたもちは、あんこ・きなこ（各2個で100円）、お雑煮（おもち2個入りで300円）で販売される



◎はねつき

羽子板と、羽根が置いてあり、自由に遊べる。羽子板の大きさは数種類あり、手作りのものもあった。羽根も、木の端材なども使ったりしたら面白かった。羽根つきで負けて顔に墨で×マークのある人もいた。



◎かきぞめ

ブルーシートの上にござが敷いてあり、その上で直接習字紙に書く。竹筒の中に筆が入っていて、紙も墨も自分達で自由に出して使える。書き終わったものは貼るところがあって、貼っても持って帰ってもOK。

◎大かるた大会

幼児から大人まで混ざって2つのチームに分ける。

幼児は大人が仕切り2つに分けたが、小学生以上は自分達で2つに分かれる。

陣地を2つ取り、プレーパーク中に大きなかるたを散らばせる。

プレーパークの真ん中の建物の上から、プレーリーダー手作りかるたを詠む。

大人も子どもも真剣に取り合う。遠慮などない。

子どもから大人が取り上げ、大人同士で取り合い、泥だらけ。すごい。

そこにもみくちやにされながら突撃していく子どももすごい。

スポーツ観戦のような気分になってきた。

我が子たちは、詠み人の隣で見ている。それも有り。本人達もそこで参加している。

優勝商品があるわけでもなく、ただただかるた取りを楽しんでいた。

終了後、大人無で子どもだけでやりたいとの意見が子どもから出る。

2回戦開始。

子ども達は真剣に取り合う。

よく集中力が切れないなと感心する。



◎どんとやき

夕方、竹を組んでどんと焼きの準備が始まった。

それぞれの家庭から持ち込まれた正月飾りや習字などがあつまってくる

準備が完了したら、年男が火を点ける。

大きな火に、今年の安全と健康を願う。

火が小さくなったら、火を飛び越える遊び。

大きい人のやるのを見て、小さい人もチャレンジしようとする。



くるくるひろば

2016. 1. 16 (日)

0円マーケット くるくるひろば

10:00~12:30 岩田絵里子



1/16 (日) 10:00~12:00
場所: 羽根木プレーパーク入り口

~10:00 代表 いたうさんが来て準備
看板、ビニールシート(4色)
カンパ箱用意
参加者さんも続々現れる

10:00~ 持ってきた傍から持ち帰る人、
ゆっくり見て回る人
みんなが見やすいようにする人
いろんな人が出入りする。
代表の伊藤さんの姿はなし。

11:30~ ボランティア、参加者さんたちが
片付け始める。
衣類はビニール袋に入れて回収へ
雑貨、おもちゃなどはダンボールへ
ゴミだと思われるものはゴミ袋へ

12:00~ 代表いたうさんが来て残ったものを
車に積んでいく。

最初は、代表いたうさんが家の前にシート1枚で始めたのがはじまり。

口コミが広がり、羽根木公園でも開催するようになった。

羽根木プレーパークは最初子どもものだけだったが、いろんな人が行き交う公園なので、

いろいろなものが増えて、今に至る。

伊藤さんは、最初に看板などを出し、時間内に不在でも成り立っている。(カンパ箱にはあらかじめ500円?)

何の場所なのか、わかるようシートの色を変えて用意しておく。参加者は自分で置いて、自分で持っていく。

残った衣類は古布回収に出す。世田谷区に依頼して、くるくるマーケット終了後に取りに来てもらえるよう手配。

それ以外の残ったものは、雑貨は、使えそうなものはダンボールにまとめて、リサイクルショップに寄付。

本は、図書館のリサイクル図書へ。ゴミと思われるものは、ゴミ袋へ。仕分けはボランティアと参加者で行っている。

伊藤さんが全部引き上げ、次の場所(リサイクルショップなど)に運ぶ。2時間程度だという。

現在5年目。0円マーケットでのカンパで運営費をまかなっている。

常設の店舗を羽根木公園近くでオープン予定。(これもカンパで運営!) 店番ボランティア募集していた。

店舗ができた後も、プレーパークでの開催は続ける予定。交流の場だからだそう。

◎まとめ

毎月行っているイベントなので、みんなよくわかっているようだ。絶えず人が出入りしていた。

持ってきたものを持ち帰らなくていい、持って帰ったものも、使わなければ来月返せばいいと思えば気が楽だ。

残ったものは当日処分されるので、毎月やっても同じものが出てくることはない。=常に新しいものがある。

子供服、靴などはいろんな家を行き来しているようだ。本当にくるくる回っている。

参加者とボランティアがわからないほど。みんなで片付けていた。「次はいつ?」みんな次を待っているようだ。

お金かからないし、シート1枚、棚1段からでもできるから、やってみるのは簡単だよ と言っていました。 以上。

0円マーケット くるくるひろば

利用のしかた

①

不用品を持ってきたら、ジャンルごとにみやすいように並べてください
基本的に引き取りは不要です。そのまま置いていって下さい。
ただし、大型のものは終了時刻までに引き取りをお願いします。

②

ほしい物がありましたら、どうぞ自由にお持ちください。

(何も持ってこなくて、もらっていただけでも結構です)

残ったものは当日処分となりますので、見えそうなものは

どんどん持ち帰って下さいね。持ち帰ってみて

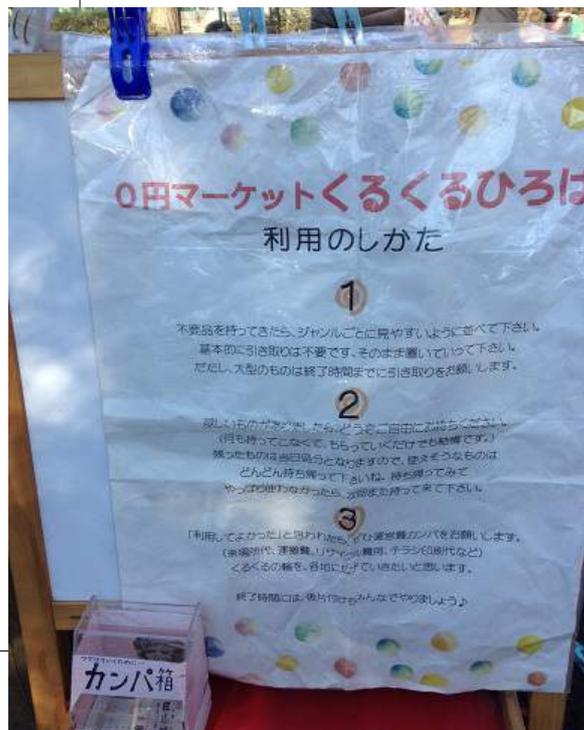
やっぱり使わなかったら、次回また持ってきてください。

③

利用してよかったと思われたら、ぜひ運営費カンパをお願いします。

(※場所代、運搬費、リサイクル費用、チラシ印刷代など)

くるくるの輪を、各地に広げていきたいと思えます。



カンパ箱：透明で、中が見える。裏に鍵がついている。

回収場所は、プレーパークの端、道路寄り
歩いて持っていける距離にある。

青：子供服（靴もあり） 一番大きなシート



白：婦人服



オレンジ：雑貨



緑：紳士服



そらまめハウスってなに？**乳幼児の親子が集う場です。**

羽根木公園に来園した乳幼児の親子が、雨や風を避けたり、オムツ交換や授乳など気軽に利用できる建物です。

屋外型の子育て支援の場です。

羽根木プレーパークのノウハウを子育て支援スタッフが屋外での子育て支援に取り組みます。

さまざまな世代の出会いとふれあいの場です。

子育て中の母達が、悩んでいることをつぶやいたり共感したりする場面をよく見かけます。

ハウスで出会った先輩ママ達がそっとアドバイスをしてみたり…。そんなふれあいのあるところです。

地域で子育てを支える場です。

子育て中の親子にハウスに来ている地域の人が話し掛けたりする中で、その親たちを支える視点を、また横のつながりを育みます。

地域の元気の源になります。

そのつながりがひろがり、力強い地域の活力となって、さらに地域が元気になっていく源になることをめざします。

◎開催するまで、そして現在

この屋外型子育て支援拠点事業は、乳幼児の親子が屋外で楽しく遊べるよう、屋外型の子育て支援拠点を全国に普及させたいと、そのモデル事業を意識して始められました。

そのために2009年度厚生労働省、国土交通省、世田谷区児童課、世田谷区公園緑地課、せたがや子育てネット、日本冒険遊び場づくり協会、専門家とともに研究会を4回開催し、ここで、最低限必要な屋内施設の広さと設備、運営体制、人員配置などの協議を重ねました。この研究会は今後も引き続き開催する予定です

＜NPO法人プレーパークせたがやHPより＞

◎開場日時

月・水～土曜 10:00～15:00 開場。（それ以外の日時は建物が閉まっている）

スタッフ1～2名が常駐。（有給）

◎利用者

参加者は出入り自由。参加名簿記載の必要有。

◎設備

床はホットカーペット、洗面所、ポット、絵本、子育て関連の本、情報、木のおもちゃ、座布団、ぬいぐるみなど外につながるデッキ、外用のスリッパ貸し出しあり。

おままごと用鍋やおたまなどあり。小さい子でも楽しめる 小さな小さなブランコ、シーソー、ツリーハウスがあってかわいかった。

◎利用状況

平日は、自主保育サークルが使用。0才～未就学児までの「ひろば」※年少以上は預けあいのようだ

0～2歳 未就園児の「ピッピの会」水・金（水曜は炊事の日）

◎総評

羽根木プレーパーク内にあり、小さい子が過ごしやすかった。スタッフがついてくれ、遊びを見守ってくれる。

月1度のイベントもあり、参加しやすい。

大きい子との関わりを持つこともでき、小さい頃から遊びこめる環境がいいなと思った。